

農畜産販売29億円に 平年並み維持 J A十勝高島

2019年4月24日

J A十勝高島（八木英光組合長、162人）の第68回通常総会が22日、町北部地域コミュニティセンターで開かれた。2018年度の農畜産販売額は前年度比3.1%減の29億1674万円で、過去最高だった17年度には及ばなかったものの平年並みを維持した。

農産部門では、6月中旬以降の低温と日照不足や台風などの影響もあって小麦、豆類、ジャガイモの収量が落ち込んだ。飼料用トウモロコシの倒伏被害もあるなど、販売支払額は15.8%減の17億1417万円だった。一方、酪農畜産部門は、昨年3月に本格稼働した酪農法人の増産などもあって生乳生産量は29.9%増の7900トンと好調。また、育成・初妊牛、素牛価格とも高値で推移した。販売支払額は23.5%増の12億256万円で、農産部門の落ち込みをカバーする格好となった。当期剰余金は3674万円で0.7%の出資配当を行う。

総会には代理、書面を含めて110人が出席。冒頭で八木組合長は「J A経営の基盤を強化し、持続可能な農業の確立に向け関係機関と協力して万全な対応を図る。（J A十勝池田町との）合併については2年後の新たな目標に向けて協議を進めていく」とあいさつ。引き続き、来賓の勝井勝丸町長らが祝辞を述べた。

J A十勝池田町との合併は、昨年12月に期日を21年3月1日とすることを両農協間で確認しており、目標に向けて協議を推進することになっている。

総生産高 最高の78億円 8年連続の更新 J Aひろお

2019年4月24日

J Aひろお（萬亀山正信組合長、160人）の総会が23日、町農村環境改善センターで開かれた。2018年度の農業総生産額が報告され、前年度比2.9%増の78億2000万円で、11年度から8年連続で過去最高を更新した。

酪農・畜産が2.4%増の75億3400万円、農作物は18.2%増の2億8600万円だった。生乳生産量は5万8692トンと2.8%増を記録。牛の販売価格も前年に続いて高値で推移した。小麦やジャガイモなどの畑作物も順調に生育した。経常利益は11.6%減の6691万円、当期剰余金は21.2%減の4769万円だった。

新年度の事業計画では、外国人も視野に入れた労働力

確保の強化、バイオガスプラント建設に向けた本格協議、防疫対策室の設置などを盛り込んだ。

総会には書面も含め116人が出席。萬亀山組合長は「総生産額が78億円を突破し、敬意と感謝を申し上げたい」とあいさつした。この他、宝泉新、森祐司の両氏を理事に選出。総会後の理事会で宝泉氏が参事兼貸出審査担当理事、森氏が信用担当理事に就任した。

販売高 過去最高191億円 ビート、ソバが高収量 J A新得町

2019年4月25日

J A新得町（太田眞弘組合長、正組合員150人）の第89回通常総会が24日、町公民館で開かれた。2018年度の農畜産物の販売取扱高は191億1124万円で、過去最高だった前年度を3.2%上回った。役員改選では太田組合長を再任した。

農産物は、6月下旬以降の低温と長雨などの影響で、小麦の収量が製品10アール当たり6.2俵（1俵60キロ）と大きく減少した。一方で、ビートやソバは高収量・高品質となり、取扱高は前年度比4.8%増の13億3735万円だった。

酪農・畜産は、酪農家戸数の減少などにより、出荷乳量が同1.4%減の4万8176トン。乳価・肉牛価格が堅調に推移したことで、取扱高は同3.1%増の177億7389万円

となった。当期末処分利益剰余金は2億3715万円を計上した。

総会には委任状などを含め120人が出席。強い農業づくりのため基盤づくりやスマート農業の実施など、6項目を重点事項とする今年度の事業方針を承認した。太田組合長は「課題が山積しているが、組合員の皆さん、関係機関の一層の協力をお願いしたい」とあいさつした。